

『UTOアラシヤン』が三越日本橋本店でデビュー。
カシミア&ハイクオリティニットのUTOがさらにグレードアップしたブランドをスタートしました。

休日には必ず散歩する野川に沿った桜の並木。夏場は強烈な日差しを遮ってくれた葉もかなり落ちて、枝の間から透き通った空が望め、まるで天幕が開いたような明るさが戻ってきました。

毎年七五三の十一月十五日ごろ、東京は木枯らし一号が吹き、ぐっと冷え込んで空が高くになります。澄んだ青空の下、オフィスや自宅から富士山が見えると『冬が来た』と実感します。

UTOのホームページも序々に更新してきました。是非ご覧下さい。

【若者は変わってきた】

今年夏から秋にかけて青山本社メンバーが一新して、てんやわんやの忙しさでした。現在、会社の柱として頑張っているのは元二一の役員秘書でファッションとは全く関係ない畑出身です。

そして企画の佐藤は、ミラノのマランゴニー・デザイン学校をベストオブイヤー賞を受けて卒業以来、イタリヤのファッション業界で長年活躍しご主人の仕事でアメリカでの生活も長い、そんな佐藤がイタリアから当社のインターネットのサイトへ応募して入社しました。

そのすぐあとに、今度はイギリスのノッティンガムトレント大学のニット大学院を卒業するという遠藤がイギリスからメールで応募してきて、しかも山梨の工場で物づくりがしたいと入社してくれました。

パートタイムで手伝ってくれている中村も宮崎もパートナーと自分のブランドを立ち上げ頑張っています。皆とつてもしっかりとっています。しかも女性ばかり。

正直どうなっているのという感じでした。彼女達のような経歴とガッツを持ってれば高収入で安定した大企業でも通用するのと思いきや、安定より自分の経験とスキルを活かせる可能性を持った職場を求めていることを知り、とても嬉しく、頼もしく思います。

このメンバーでUTOはワンランク上のステージにステップアップするように頑張りますので、どうぞ宜しくお願い下さい。

UTO ALASHAN

配色針抜タートルネック

No. AM82105 ¥90,000.+TAX
LL (¥95,000.+TAX)



肌触り抜群のアラシヤン100%のメンズタートル。針り抜きの縦線と袖先、袖口の鮮やかな配色がポイントです。

UTO ALASHAN

リバーシブルマフラー ストライプ & チェック

No. AM82901 ¥30,000.+TAX
No. AM82902 ¥30,000.+TAX



『裏表が反対色』が魅力のリバーシブルのマフラー。ふわふわの肌触りがなんとも言えません。クリスマスプレゼントにもぴったりです。

カシミア100% ケープ風ボレロ

No. 1005-2007 ¥85,000.+TAX



5ゲージの太い編地のリブとケープでショート丈のシルエットが今年らしい可愛さあたたかさを演出しました。



シロミスジ

【南青山界限】

UTOはこんな街から発信しています

岡本太郎の壁画（明日の神話）

メキシコから日本に里帰り

毎日通勤で利用する井の頭線の渋谷駅。吉祥寺方面から来た井の頭線は渋谷マークシティビルの2階に着きます。ここからJR山手線や地下鉄銀座線、半蔵門線、東横線に乗り換えられますが、私は左側のエスカレーターで3階に上がって地下鉄銀座線に乗り換えます。鉄道の駅で渋谷は地下鉄が一番上の3階から出る面白い駅です。

十一月十七日、そのマークシティの通路の壁に巨大な壁画が出現しました。岡本太郎の『明日の神話』という壁画で、縦五・五、横三十メートルもあり、このビルの壁面一杯の絵です。この壁画は岡本太郎が万博会場の『太陽の塔』を作ったときと同じ頃、メキシコのホテルの壁画として製作したもので、その後ホテルが倒産してしまつて行方が分からなくなっていたのを近年、今は亡き奥さんの岡本敏子さんが執念で探し出して日本に里帰りさせたそうです。

岡本敏子さんは、前の事務所の真裏が岡本太郎記念館だったので、時々訪れたり道で逢ったりしたときに挨拶するぐらいの面識があり、この壁

画の発見と公開をとつても嬉しく思います。

作品が発見されて、この素晴らしい作品を公開する候補地を選んでいて、最終的に3箇所絞られたというのをニュースで見たことがあります。ひとつは大阪の万博会場であの太陽の塔とセットで公開。次に広島島の平和公園。そしてここマークシティでした。

渋谷は非常に沢山の人が集まる場所ですが、ここは井の頭線を利用する人が主で通勤通学の同じ人が通るので、渋谷にくる大勢の人が見るにはちょっとマイナーな所かなと思つていたので、『残念ながら、嬉しいことに』渋谷のマークシティに決定したことに複雑な気持ちでした。でも繊細な壁画にとつては風雨を避けられるし、こんな大きな壁画はなかなかないでしょうね。

この絵を一望に見られるお勧めの場所があります。そこは井の頭線の改札を出てマークシティの左側の小さなエスカレーターを上がって3階の地下鉄銀座線へ向かう通路です。そう、ここは通勤で会社のある表参道に向かうコースで設置工事のときから、まだかまだかと覆いが取れるのを待っていました。ここなら通行人にぶつかっても無く、目の前に絵全体が見られます。但し、このコースは銀座線に乗るコースで、降りるときはここは通れません。ご注意。

渋谷・青山界限に出かける機会があったら、このマークシティの『明日の神話』、青山通りの青山学院前のこども城にある『子供の樹』、青蓮通りのUTOのカシミアを見て岡本太郎記念館という歩いて約二十分の散歩コースをお勧めします。



* ファッション販売員のための ニットの話 * (二十七)

ニット糸と織り糸の違い

一番良い原料を使うニット糸

織物の細さと長い原料を求められるニット糸

ニットの自慢話になってしまいましたが、天然素材の原料で糸を作る（紡績する）とき、最も良い原料を使うのはニット糸、と言うのはあまり知られていません。ニット屋同士の間では、『このカシミヤの原料の長さやニット糸は無理だから織り糸だね』なんて言う話が出る時があります。なぜニット糸はグレードが高いんでしょう。それは撚りの甘さです。

糸を作る（紡績する）基本は『原料の繊維を束ねて撚りをかける』と以前お話ししました。

細い糸にひくには、束ねる繊維の量は別として、撚りを強くかければ丈夫でかなり細い糸でもひく事が出来ます。

しかし、ニット糸の場合はふんわりした糸が命ですから強く撚りをかけることが出来ません。

強い撚りをかけられないなら一本一本の原料の繊維が長くなければ抜けてしまいます。

ふんわりした糸を作りたいのに強い撚りをかけられないから『長い繊維の原料』を使うしかありません。その長く細い繊維は高価なんです。

ニットの匠たちは、ウールの糸は編み機にセットしてちよつと編んだだけで糸の良し悪しが分るといいます。ウール以外の糸はある程度強い撚りがかかっていますので素抜けしたり切れたりはあまりしません。

ウール、特に紡毛と言われるカシミヤ、アングラ、モヘヤ、キヤメル、アルパカなどはそれぞれの原料の特徴もあり繊維の長さをはじめ撚りの回数などで違いが出るので知識と経験が必要です。カシミヤは繊維が短いと素抜けしやすい、撚りが強すぎると縮絨しても風合いが出にくい。アルパカはいちばん素抜けしやすく毛が他に着きやすい。アングラは毛が切れやすく埃のように飛び散るし、モヘヤもストレートな繊維なので伸度が弱く編むのに苦勞する。等々・・・。

織物は生地になってからが勝負？

一方、織り糸の場合はかなりの撚りをかけてしっかりした糸を作ります。縦糸を張り、横糸を通しながら織り込んで、その上に箆で詰めて一枚の布にするので糸はしっかり丈夫でなければなりません。その為には撚り回数を多くして引っぱり強い糸にするんです。

カシミヤの織物はその生地の表面を引っかけて毛を立てて独特の織り物を作ります。その毛羽立ちの良さが布地の評価を大きく左右します。

昔から生地を引っかけて毛羽立たせるのに野生のあざみの実のイガイガを使ってきました。そのためヨーロッパの高級生地生産工場では自家栽培であざみを育てていたんです。この頃は金属製の代用品もあるそうですが、やはり天然のあざみの実に勝るものはないそうです。

その毛羽立ちの技術を誇るかのように、カシミヤの織り物のメーカーにはあざみの実のマークをよく使っています。カシミヤ織り物の代表と言われるロビアーナのマークにもあざみの実がデザインされ、カリアッチなどはもろあざみの実です。

このように同じ原料の繊維を使っても糸に対する要求が違うので原料の選び方もちがってきます。けつこう奥が深く面白いですね。

CARIAGGI



Loro Piana

忙中暇話・ニット屋のたわごと

旅行鞆の中身



泊りがけの旅行や出張等で、『カバンが小さいですね』とたびたび言われます。ことさらカバンを小さくしようと考えているわけではないんですが、荷物が大きいと身動きが不自由になるのが嫌で必要最低限になってしまいました。これは昔旅行屋で、添乗員をやっていた時に身につけてしまっただけで、今は習慣になってしまったかと思えます。

学生時代に大阪万博が開催され国内団体旅行ブームが起きました。丁度その頃、近畿日本ツーリストでアルバイトをして国内の添乗員をやったのが切っ掛けでした。万博を自当てる3泊4日ぐらいの『京都・奈良と大阪万博』とか、『万博と有馬温泉』など関西を中心とした団体旅行の添乗員として、学生の友人と二人で五十人ぐらいのお客様を案内するんです。そのときに仕込まれたのが『添乗員はショルダーバッグひとつ！』でした。

旅行に案内するのが仕事ですから自分の荷物が大きくて仕事に支障があつてはいけませんので当然です。カメラを持たないのも、泊まったホテルで下着や靴下などを毎晩洗濯するのもこの頃身につけてしまいました。特に洗濯を身につけると長い旅行でも荷物が増えない。洗剤は備え付けの石鹸で十分なので柔軟剤を少し持つていくのがポイントでその頃から実行していました。

以来、日数の長い海外添乗でも、自分の旅でもカバンは小さくなってしまい、デジカメを持っていてもつい撮るのを忘れてしまい、殆んど写真が残っていないで残念に思うことがあります。

一方、短い旅行でもとても大きなカバンに中身が一杯という人がいらつしやいます。こういふ人は一般に面倒見が良い人で、先々の予防のために周到な準備を怠らない人によります。旅が始まり、乗り物が動き出して少し落ち着いたらと思つたら食べ物か回つてきたり、部屋にお邪魔したら色んな食べ物か揃っていて感心します。

カバンが大きいのは長女が多いらしい、と言う話を聞いたことがあります。小さい頃か兄弟の面倒をよくみることに慣れているからかそうです。次男は上のほうが面倒を見てくれるので自分のことばかり考えるんでしょうか。僕のようなはずばらな次男には全然出来ないことです。心当たりはありませんか。

この頃のカバンはとても進化しました。その第一はキャスターの進歩ですね。昔はすぐ壊れて、キャスターが壊れると最初から付いていない鞆より始末が悪いという代物でした。今は丈夫になつて小回りが利く鞆になり、これなら鞆の大きさを気にしなくても済みそうです。

世界のホテルを旅する (二十七)

元、旅行屋のお勧め サンフランシスコ・USA

ホテル ウェスティン セント・フランシスコ

アメリカ人に言わせると、サンフランシスコはアメリカの中でもアメリカらしくない街のひとつだそうなんです。『シスコはヨーロッパみたい、だから大好きな街』と言う人が多いのはやっぱりヨーロッパへの憧れやノスタルジーを感じるんでしょうか。

今回紹介するホテル・セント・フランシスコは二十世紀初めに建てられたサンフランシスコの名門中の名門ホテルで、昭和天皇やエリザベス女王などの超VIPが泊まられたというホテルなんです。

そんな高級なホテルに最初に泊まるチャンスを得たのは30年近くも前の、今は亡き義父母を案内して渡米したときで、スポンサー付だからこれ幸いと『サンフランシスコの中心のユニオンスクエアの真前で何処へ行くにも便利で、清潔、安全、名物のケーブルカーも前の通りを走っているよ』と良いこと尽くめを言いつ、憧れのホテル・セント・フランシスコをチャッカリ予約したからです。私の懐で泊まれるようなホテルではありません。

アメリカのホテルと言えばワウリング・インフェルノのモデルになったハイアットリージェンシーに代表される超近代的な造りの建物が頭に浮かびますが、名門ホテルはヨーロッパ風が圧倒的に多いようなんです。



セント・フランシスコも古い造りの重厚な建物で、英国の伝統を受け継ぐ、古き良き豊かなアメリカの代表と言ふ建物です。一歩足を踏み入れると、ロンドンのホテルに似たような気持ちになります。

玄関前の通りを名物のケーブルカーがガーターと騒々しい音をたて、チンチンと鐘を鳴らしながら行き来しています。フィッシャーマンズワーフ方面に向かう急坂を登ったケーブルカーや車が、踊り場のような平地にかかると見えなくなつて、また登りにかかると姿を現すサンフランシスコならではの風景がここにありまます。

古いほうの本館に泊まりたかつたんですが、残念ながら高層の新館。しかし、ここからの眺めは抜群でした。超高層の階の部屋からサンフランシスコの街が一望でき、オーランドまで見渡せます。見下ろした、ひろひろの伸びたあつちこつちのビルの屋上で日光浴をしている人の多いこと。いかにもアメリカらしいと変なところで感心してしまいました。

両親にはとても満足してもらえ、私にとっては憧れのホテルに泊まれた朝ぼたのサンフランシスコでした。